

環境目標（１）多様な生態系と共生するまちづくり

～豊かな自然・文化の保全・創造と環境共生型社会資本の整備～

本市には、豊かな自然環境が市域全体に残り、多種多様な野生生物が生息しています。この環境を保全・改善していくことは、現在及び将来の市民がいきいきと健康に暮らしていくのに必要です。

こうしたことから、自然環境の保全や再生に一層力を入れ、生態系を育むまちづくりを進めます。

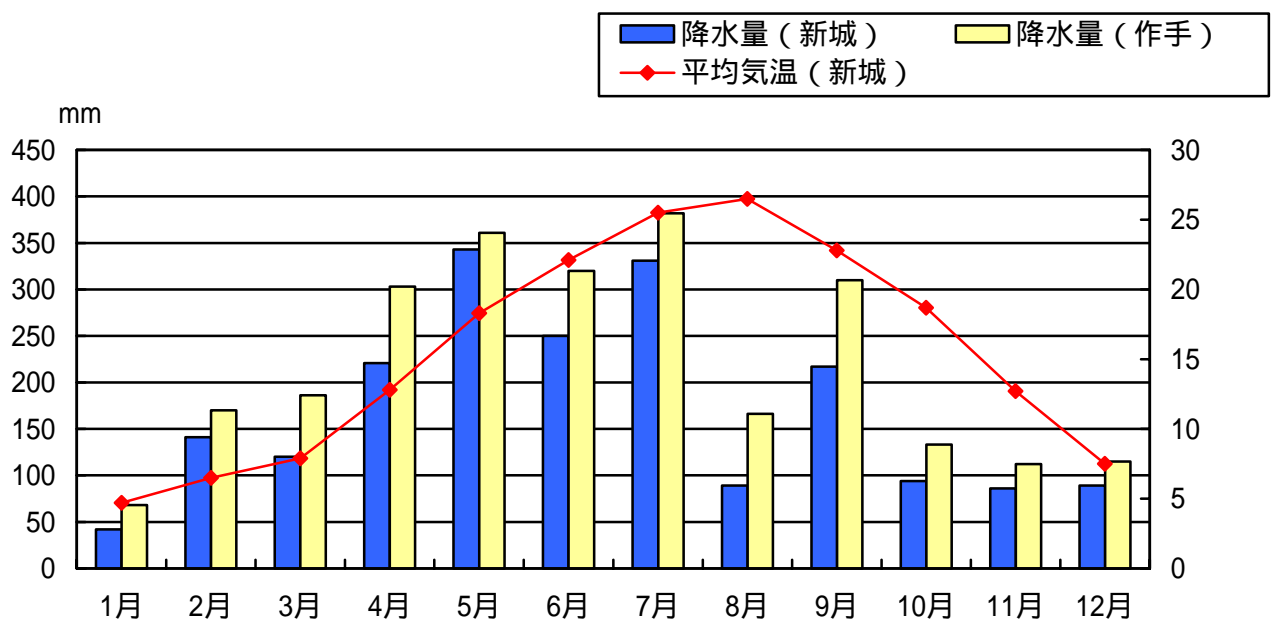
～ 現況 ～

自然環境

気象

本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約 500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約 15 と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約 12 となり、市域内で 2～3 の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域に差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年 12 月から 3 月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が毎日のように続きます。

平成 18 年 月別平均気温・降水量



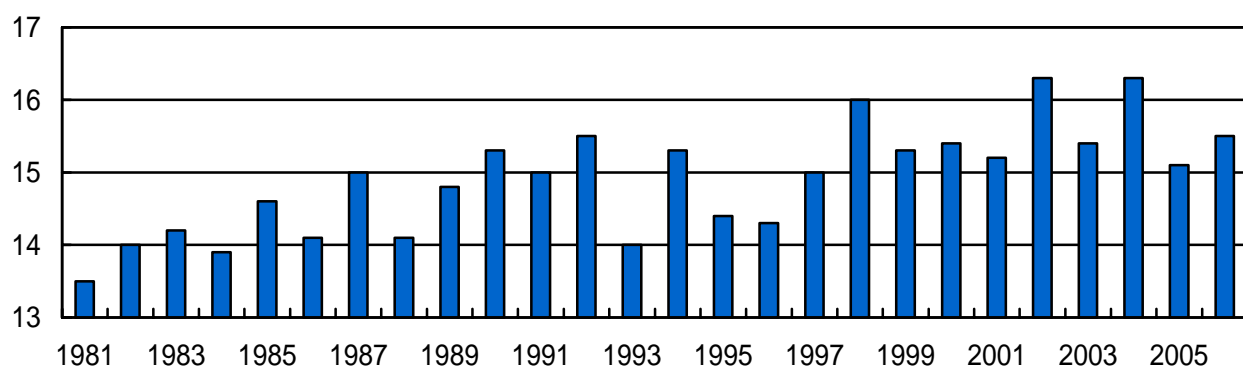
（気象庁統計データ）

新城市の気温に関するデータ

1981年から2006年までの26年間のデータを比較しますと、年平均気温は上がったり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇していることがわかります。

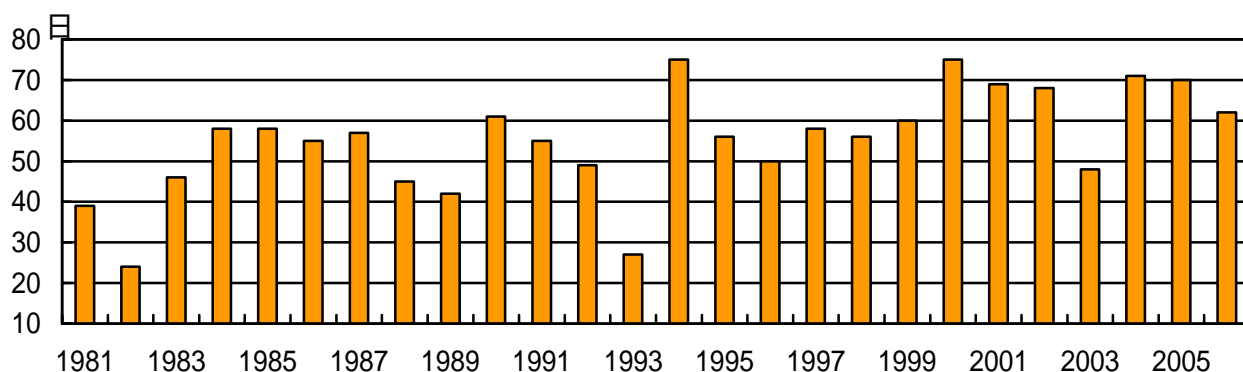
また、最高気温30以上の「真夏日」日数、最低気温0未満の日数においては、直近の10年間で1980～1990年の10年間とを比較してみても、それぞれ日数に違いがあることがわかります。

【年平均気温の推移】



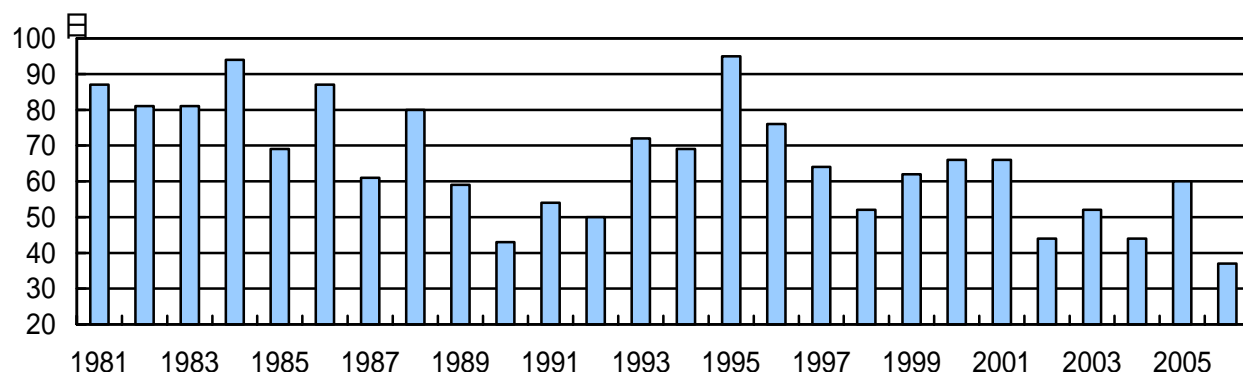
(気象庁統計データ)

【最高気温30以上の日数】



(気象庁統計データ)

【最低気温0未満の日数】



(気象庁統計データ)

観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

地形・地質

段戸高原を源とする豊川(寒狭川)と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・領家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川帯で構成されています。これらは、平坦地が洪積層・沖積層となっています。



作手地区長の山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から6か所の湿原が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余種確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝及び天然記念物に指定されています。

豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地及び外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	雁峰山から本宮山にかけての北部山地と東部および南部の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られる。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）の生息地、山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されている。
鳥類	豊川やそれにそそぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息している。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息しており、桜淵公園だけでも年間を通して約 80 種の野鳥が確認されている。また、鳳来寺山や作手地区の山々には「仏法僧」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されている。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されている。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれている。
昆虫類	本市の様々な植生により多くの種類が確認されている。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ多くのセミ類やトンボ類、チョウ類、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなど生息するとされている。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイ・カシ林に生息するとされるヒメハルゼミの確認が難しくなるとともに、その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受け確認事例が減少傾向にある。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されている。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されている。最近では、ペットとして飼われていた外来種が巨大化などにより自然に放たれることにより、在来種の生態系への影響だけでなく、人への危害も懸念されている。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエル、ヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されている。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できる。



- コラム - 新城市の自然に触れる

桜淵公園

新城市のほぼ中央にある桜淵公園は、天竜・奥三河国定公園の南玄関で「三河の嵐山」といわれています。その名の示すとおり、桜と淵をもつ県下屈指の景勝地で、春は桜が清流の兩岸に爛漫と咲き乱れ、夏の緑、秋の紅葉が調和して、四季それぞれの風情を満喫させてくれます。



川売の梅

海老地区から谷川に沿って曲がりくねった道を進むと、目の前に突然なだらかな斜面いっぱいに広がる梅の雲海が現れます。山の中にこんな素晴らしい梅林があるのかと、初めて訪れた人は、その素晴らしい景観と、一面に漂う梅の花の香りに驚きます。

鳳来寺山

標高は695m。あまり高くない山ですが、鏡岩に代表される岩肌を露出した美しい山の姿は、豊川の河口から川の流れに沿って、どこからでも眺めることができます。山体の底部は砂岩、泥岩の海成層で、その上におよそ1500万年前の活動による火山岩類が厚く重なっています。

山頂部は松脂岩で、松やにのように見える天然ガラスでできています。これだけまとまった松脂岩の分布は、日本でも鳳来寺山だけです。

また、鳳来寺山には日光・久能山とともに日本三東照宮と称される鳳来寺東照宮が建立されています。3代将軍・徳川家光が日光東照宮に参詣した時、東照宮縁起に「家康の父君広忠公が、広良い世継ぎを得たいと思われ、於大の方とともに鳳来寺に参籠し、祈願したところ、その効あって家康が授かった」と記されてあるのに感銘を受けたことから建立されました。



阿寺の七滝

日本の滝百選の1つにも選ばれ、国の名勝及び天然記念物の指定を受けました。この滝は、全長62mで水がここを流れ落ちる間に水圧によって岩が削られた甌穴を持ち、七段の滝を作り上げているところに名前の由来があります。

また、滝までの沿路脇には、地震によって割れた石が長い年月によって自然にくっついた「くいちがい礫」や岩の中に小石を含んだ「子抱き石」とも呼ばれる礫岩が見られます。



鮎滝

天竜・奥三河国定公園の中にあり、天然の鮎が滝を飛躍する様子から命名された「鮎滝」は、周りの自然が美しく、中でも「猿橋」は川の侵蝕により特異な景観になっています。

また、この「鮎滝」には、この滝を飛躍して遡上する鮎を竿の先につけた網ですくって捕まえる、江戸時代から地元の出沢地区に伝わる「笠網漁」という珍しい漁法があります。

四谷千枚田

新城市鳳来地区の北端に位置し、鞍掛山麓近くに広がっています。その起源は古く、詳しい資料はありませんが、江戸時代頃には千枚田としての形態が整っていたと推測されます。

明治37年に、大雨による山津波が発生し多くの犠牲者を出す大惨事がありました。それから何年もかかって修復したのが今の千枚田です。

大雨でも濁らない湧き水を持ち、おいしいお米を生み、四季折々に多彩な表情を見せてくれる千枚田は、奥深い魅力を秘めています。

あぜや石垣によって大雨の際の土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害防止機能を備えています。



歴史的・文化的環境

指定文化財の状況（文化課）

平成 18 年度末現在

	種 別	名 称	所在地	指定年月日
国指定文化財	建造物	東照宮	門谷	S28.11.14
		鳳来寺仁王門	門谷	S28.11.14
		望月家住宅	黒田	S49.2.5
	絵画	絹本著色三千仏名宝塔図	中宇利	H6.6.28
	彫刻	木造薬師如来坐像	庭野	S6.12.14
		木造本阿弥陀如来坐像	巢山	S52.6.11
		附 木造観音菩薩坐像	巢山	S52.6.11
	無形民俗	三河の田楽	門谷・七郷一色	S53.5.22
	史跡	長篠城跡	長篠	S4.12.17
	名勝	鳳来寺山	門谷	S6.7.31
		阿寺の七滝	下吉田	S9.1.22
	天然記念物	乳岩及び乳岩峡	川合	S9.1.22
		馬背岩	豊岡	S9.5.1
		黄柳野つげ自生地	黄柳野	S19.3.7
甘泉寺のコウヤマキ		作手鴨ヶ谷	S47.5.26	
国登録文化財	建造物	旧黄柳橋	乗本	H10.9.2
		瀧川家住宅主屋	出沢	H17.2.28
		瀧川家住宅長屋門	出沢	H17.2.28
		瀧川家住宅祠	出沢	H17.2.28
県指定文化財	絵画	甘泉寺の涅槃図	作手鴨ヶ谷	S47.6.7
	彫刻	木造十一面観音立像	杉山	S32.1.12
		木造不動明王立像	巢山	S54.3.15
		木造熊野三所懸仏	巢山	S54.3.22
	無形民俗	信玄原の火おんどり	竹広	S40.5.21
		乗本万灯	乗本	S51.7.14
		南設楽のほうか	大海・布里・一色 塩瀬・源氏・名号	S58.9.14
	史跡	設楽のしかうち行事	能登瀬	S58.3.7
		宇利城跡	中宇利	S32.9.6
		旗頭山尾根古墳群	八名井	S53.5.29
	名勝	断上山古墳 9・10 号墳	大宮	S53.10.16
		満光寺庭園	下吉田	S49.7.3
	天然記念物	須山のイヌツゲ	作手清岳	S29.2.5
		ムカデラン自生地	川合	S30.5.6
ねずの樹		門谷	S30.7.1	
長ノ山湿原		作手岩波	S48.11.26	
	中宇利丸山の蛇紋岩植生	中宇利	S55.2.12	

市指定文化財	種別	指定数	名称
	建造物	8	能舞台、満光寺の山門、薬師堂など
	絵画	3	太田白雪画像、鳥居勝商磔殺の図など
	彫刻	29	木造大日如来坐像、山寺の寝観音、木造金剛力士像（阿形・吽形）など
	工芸品	6	能装束・能面、鰐口、唐の頭、喚鐘、鉄砲、梵鐘
	典籍	8	太田白雪自筆著書、大般若波羅密多経巻など
	古文書	38	今川義元証文、朱印状、慶長9年検地帳、御觸書留帳（町役場日記）など
	考古資料	7	大ノ木遺跡他遺跡出土品、茶臼山古墳他古墳出土品
	歴史資料	1	吉田川井堰引船図附 井堰御普請関係文書
	無形	2	祭礼能、立物花火
	有形民俗	7	石座石、服部神社伝来赤引糸関係遺物など
	無形民俗	13	新城歌舞伎、山ノ神年占い、鍋づる万灯など
	史跡	64	上ノ平遺跡、摩訶戸古墳群、新城城跡、信玄塚、芭蕉句碑、蟻塚など
	名勝	4	鳴沢の滝、桜淵、鮎滝、富賀寺庭園
天然記念物	24	白鳥神社の大スギ、ヒメハルゼミ、有海ミカワバイケイソウ自生地など	



御觸書留帳（町役場日記）【古文書】



新城歌舞伎【無形民俗】



木造金剛力士像 阿形・吽形【彫刻】



ミカワバイケイソウ自生地【天然記念物】

歴史・文化関連施設（文化課）

鳳来寺山自然科学博物館

鳳来寺山自然科学博物館は、国の指定名勝天然記念物・鳳来寺山を中心に、自然の宝庫である東三河を研究するため昭和 24 年 9 月に結成された「東三河の地質と鉱物の会」が田口鉄道鳳来寺駅の公舎を改造して開館した、田口鉄道自然科学博物館が前身になります。



そして、昭和 38 年 4 月 26 日、元鳳来寺村長で林業家の丸山喜兵衛氏の寄付により、日本初の二重展示方式を取り入れるなど全国的にも画期的な町立の自然科学博物館が建設されました。

各自然分野の専門家である学芸委員による野外学習会は、開館からの 43 年間たゆまず開催されており、展示活動においては、足元の自然をテーマに郷土のすばらしさを様々な角度から掘り下げて展示されています。

設楽原歴史資料館・長篠城址史跡保存館



設楽原歴史資料館

日本三大決戦の一つとされる長篠・設楽原の戦いは、織田・徳川連合軍が初めて新兵器鉄砲(火縄銃)を大量に使用し、その威力をまざまざと見せつけ、後の戦術に一大変革をもたらした日本史に残る著名な戦いです。

設楽原歴史資料館、長篠城址史跡保存館には、戦国の分岐点を演じた「鉄砲の戦い - 設楽原の決戦」にまつわる人、経緯、火縄銃の果たした役割・その歴史を展示しており、織田・徳川連合軍が

陣地の前にめぐらした武田騎馬軍の進撃を防ぐための馬防柵も再現しています。

また、設楽原歴史資料館には、日本開国の基となった幕末の日米修好通商条約調印の立役者・岩瀬忠震についての資料も展示しています。

作手歴史民俗資料館

作手高原には、「日本の重要湿地 500」にも選定されている広大な湿地帯があり、人々は原始・古代から現代に至るまで、その湿地をたくみに利用してきました。

作手歴史民俗資料館には、こうした風土の中で育まれた人々の歴史、民俗や湿地についての資料が集められています。



長篠城址史跡保存館

歴史・文化関連施策

新城ふるさとマイスター（企画課）

趣味や仕事などで、豊富な知識や経験、優れた技術を持つその道の達人「新城ふるさとマイスター」が、地域での講演会や体験型行事の先生として、とっておきの技や知恵をお教えします。現在、ふるさとマイスターには、次の18分野19名の方が認定されています。

【新城ふるさとマイスター認定者一覧】（平成18年度末現在）

氏名【内容】	氏名【内容】
藤田 萬吉 【木彫】	藤村 喜八郎 【手づくり豆腐】
林 吉宏 【農村家庭のしきたり】	佐藤 正明 【ピアノ・オルガン再生】
山岸 桃子 【家庭で使うパソコン】	滝川 英昭 【メンタルヘルス】
菅沼 伸之 【竹細工】	岡田 真澄 【世界の桜】
杉浦エリザベス・森田紀代美 【二ヶ国語絵本読み聞かせ】	原田 卓昌 【はくせい】
	大井 みどり 【パッチワーク】
竹本 政一 【陶工芸】	古市 正一郎 【マジック（手品）】
原田 弘子 【藍染】	黒田 千歳 【和紙の花】
菅谷 哲也 【火縄銃研究】	菅谷 年弘 【趣味の庭造り】
河部 義通 【柿酢】	

新城まちなか博物館（生涯学習課）

新城まちなか博物館は、新城の風土の中で生まれた新しいタイプの博物館活動で、仕事場や生活の場がそのままミュージアムであるということです。

「まち」の活動や暮らしの工夫がそのまま博物館であり、生涯学習のキャンパスとなります。順次まちなか博物館の指定を進め、現在は16館になりました。

【新城まちなか博物館指定一覧】（平成18年度末現在）

	博物館名	内容
1	日野屋商店	酒蔵
2	中西農村民具室	明治時代からの農村民具の展示
3	大原商家民具室	明治時代からの商家民具の展示
4	はたおり工房	高機による機織り
5	馬場彫金工房	鋼板のレリーフ・器の作成
6	藍弘苑	本藍による絞り染め
7	出沢やままゆ養蚕所	やままゆ施設見学・養蚕体験
8	郷土の食品・さくら工房	そば・五平もち作り体験
9	竹細工工房	虫かご・歴史的建造物の制作
10	寒峰窯（陶工芸）	陶芸及び制作
11	ねんどの里	石粉粘土による創作人形
12	イーハートーブ吉川	染色工房・染め絵制作
13	竹工房・雅夢	竹細工
14	明神窯（竹炭）	釜入れ・釜出し・材料集め体験
15	エコファーム河部農園	果樹栽培と柿酢作り
16	(有)伸昌	銅版を使った折鶴作り

～ 施策実施状況 ～

キーワード 豊かな自然

施策の目標 豊かな自然の保全

現存する自然の量的確保と質の維持・向上をめざし定期的な自然環境調査を行い、樹林・水辺・谷戸など生態系に重要な環境の保全・育成に努めます。

施策項目 定期的な自然環境調査の実施

事業名	区分	担当課	評価
自然環境保全基礎調査	追加	文化課	

取り組み内容

「新城の自然（新城地区）調査報告書」（新城地区自然調査会編）の発行

本市の自然環境を知る専門家の方々により、新城地区を3年間にわたり調査した結果をまとめた自然環境保全基礎調査報告書を発行しました。

【新城地区自然調査会委員】

地質・地学編	磯部喜章、鳥居孝、牧野吉伸、加藤敦也 鳥居小夜子、森田哲人
植物編	石川静雄、加藤貞亨、鳥居栄一、鈴木隆 今泉洋良、熊谷尚久
動物編	小林裕美、佐藤勝彦、西村良男、皿井信 小椋克好、小林芳春、杉山茂生、原修一
昆虫編	鈴木隆喜、水谷英夫、原正樹



課題・問題点等

今回の報告書は、長年の研究や現地調査により確認された新城地区の自然目録であるが、この報告書を活かした詳細な地域分布や希少性等の調査が必要である。

今後の展開

合併に伴い、市内全域の自然環境について包括的に調査及び報告書の作成を進める。

事業名	区分	担当課	評価
新城市自然生態系調査員制度	継続	環境課	

課題・問題点

ボランティア調査員登録人数の伸び悩み。各分野の専門家の確保。市の教育局との調整。

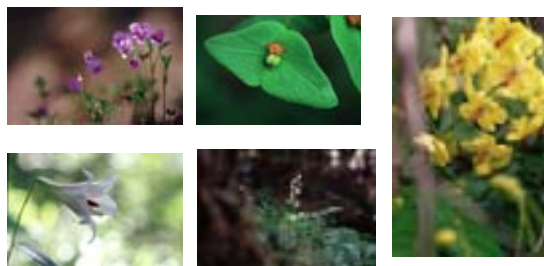
施策の展開

ボランティア調査員への情報フィードバックの充実を図り、現登録者の参加意識の維持と新規登録者の増員をねらう。

取り組み内容

本市では、これまで国・県のレッドデータブックを参考に野生動植物の生息・生育状況調査を行ってきましたが、まだ、未調査の部分が多く残っています。そこで、多くの方に調査員として協力をしていただくため、新城市自然生態系調査員制度を開始しました。

調査員は登録制のボランティアでいつでも参加できるようになっています。本市の自然に関する情報をいただき、専門家に検討を依頼します。



調査員からの情報提供

新たな課題

今後の展開

市全域を包括的・効果的に調査していくため、鳳来寺山自然科学博物館と今後の事業や調査方法等について調整を図る。

キーワード 自然とふれあうまち

施策の目標 自然に親しむ心の醸成

子どもの頃からの自然への親しみは、健康で健全な情操を育みます。自然は、あらゆる階層の人々にとって潤いとやすらぎの空間です。生活圏のなかに豊かで親しみやすい自然を配し、日常的にそれとふれあう環境を創造するとともに自然を大切にする心の教育と学習に努めます。

施策項目 家庭・学校・社会での自然環境学習の推進

事業名	区分	担当課	評価
鳳来寺山自然科学博物館活動	継続	文化課	
課題・問題点	テーマの固定化と指導者の高齢化。市内全域への広報の仕方とマスコミへの情報提供。		
施策の展開	市内全域をうまく利用するための自然観察地点の把握や候補地の検討を行っていく。		

取り組み内容

友の会会員制度

自然学習会などを通じ、自然に対する知識や理解を深めるとともに仲間の交流や友好を図ることを目的として「友の会」を設立しました。個人・家族・学校のクラブ単位で入会でき、様々な博物館行事等に参加できる仕組みになっています。

会員の期間は1年間で、平成18年度は市内をはじめ県内外から813名の方が入会しました。

特別展示

季節に合わせて、足元の自然をテーマに魅力的な特別展を企画しています。

展示会名	内容	期間
奥三河の自然博物展	新城市を中心とした奥三河地方の自然の紹介	3月25日～9月25日
きのこ展	新城市を中心に奥三河地方で見られる野性きのこの展示ときのこの役割について紹介	10月1日～10月23日

野外学習会

博物館の各分野の学術委員を講師として、1年を通じ様々な学習会を開催しています。

【平成18年度 野外学習会開催状況】

テーマ	開催日	参加人数
春の里山の植物	4月23日	70人
瑞浪の化石採集	5月14日	58人
桜淵の春の生きものを観察しよう	5月28日	49人
中央構造線探索	7月30日	49人
草はらの虫を調べよう	9月24日	37人
きのこを調べよう	10月15日	85人
乳岩の紅葉	11月12日	31人
川原で鳥や生きものを観察しよう	12月3日	23人
冬の自然と博物館探検	2月3日	29人

博物館ガイドツアー

自然の楽しさ・魅力をもっと知ってもらうため、博物館を拠点に鳳来寺山周辺の四季折々の自然を案内します。

新たな課題 今後の展開	郷土の自然の魅力を引き出し、発見できる新たな視点や、フィールドの開発をしつつ、地に足の着いた活動を継続していく。
----------------	--

施策項目	自然体験の推進														
	事業名	区分	担当課												
	こども自然講座	継続	文化課												
課題・問題点	広報手段、特に小学校への周知の仕方。														
施策の展開	動物・植物・地学分野について、子どもの興味がわくものをテーマとして開催。														
取り組み内容															
<p>子どものころから自然の中で、石や虫、草花を観察したり遊んだりしながら、郷土の自然に親しみ、その魅力や大切さを実感する機会として、「こども自然講座」を開催しています。</p> <p>【こども自然講座開催状況】(平成 18 年度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>開催日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>縄文人に挑戦！石のアクセサリーづくり</td> <td>7月22日</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td>落ち葉の下の生き物を調べよう</td> <td>7月23日</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>野の花の世界をルーペでさぐる</td> <td>8月6日</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>				テーマ	開催日	参加人数	縄文人に挑戦！石のアクセサリーづくり	7月22日	39人	落ち葉の下の生き物を調べよう	7月23日	13人	野の花の世界をルーペでさぐる	8月6日	8人
テーマ	開催日	参加人数													
縄文人に挑戦！石のアクセサリーづくり	7月22日	39人													
落ち葉の下の生き物を調べよう	7月23日	13人													
野の花の世界をルーペでさぐる	8月6日	8人													
新たな課題 今後の展開	学校との連携を図り、講座内容やその成果等のフィードバックを行う。														
	事業名	区分	担当課												
	ジュニアナチュラルリスト養成楽級 ～メダカの学校・川ガキ教室～	新規	文化課												
取り組み内容															
<p>市内を流れる清流「寒狭川」の魚や水生生物の季節ごとの生活状況等をじっくり観察する連続5回の教室です。</p> <p>1年を通して観察することで、季節による環境や生物の変化を知ることのできる機会となっています。</p> <p>最近では、見ることが少なくなった川ガキ(川で真っ黒に日焼けして遊ぶ川のことをよく知る子どもたち)を絶滅危惧種に例えた、身近な自然環境の保全のためのリーダー育成につながる学習です。</p>		 <p style="text-align: center;">川ガキ教室の様子</p>													
生徒数 20人															
	回数	内容	開催日												
	第1回	水生生物調査、魚類調査、河川環境調査、若アユの観察	6月11日												
	第2回	水生生物調査、魚類調査、河川環境調査、婚姻色の魚や卵の観察	7月16日												
	第3回	水生生物調査、魚類調査、河川環境調査、幼魚の観察	9月10日												
	第4回	水生生物調査、魚類調査、河川環境調査、水生昆虫と魚の胃の内容物の観察	11月26日												
	第5回	まとめと発表会	1月14日												
課題・問題点等	川に親しみ遊ぶ部分と調査活動のバランス、安全確保。一年を通して連続参加できる日程の調整。														
今後の展開	岩石、化石、鉱物などの地学分野、陸生の動物、野鳥、菌類、植物などテーマをしばって自然教室を開催していく。														

キーワード やすらぎのあるまち

施策の目標 公園の整備

市街地を中心に魅力ある公園づくりに努めます。また、公園の適正配置に考慮するとともに遊歩道など緑のネットワーク化を進めます。

施策項目 地域の特性に合った魅力ある公園づくり

活動名	区分	担当課	評価
市場台公園整備	新規	都市計画課	

取り組み内容

【ワークショップ】

上市場区画整理事業により確保された公園用地を、地域密着・愛着のある公園として、どのように利用していくかを話し合うワークショップを計7回開催しました。



現地調査



テーブルワークの様子

地域住民の意見を基に作成した基本計画

- ・市場台北公園 運動が出来る公園づくり
- ・市場台南公園 遊具が充実し、かつ、子どもから高齢者まで安心して利用できる公園づくり

【公園整備】

ワークショップによる基本計画を基に整備内容を立案及び精査し、2か年に分けて整備しました。



市場台北公園（平成17年度）



市場台南公園（平成18年度）

【公園管理】

芝生広場や多目的広場等は、地域の方々による積極的な参加により管理されています。

課題・問題点等	いつも子供の声が聞こえるような地域の公園として、多くの方に利用され喜ばれている。立地も住宅地の真ん中に整備することができたが、遊具やフェンス、トイレ等の人為的な破損等も発生し、その対策に苦慮している。
今後の展開	今後とも地域住民の憩いの場としてみんなに愛着を持っていただくとともに、より一層多くの方に管理に参加していただけるような取り組みを進める。